

## リハビリテーション科チーム活動計画・報告書について

### 目的

効果的・効率的に成果を生み出せるチームをリーダーを中心に作り上げていくため。また、その中で、リーダーやサブリーダーなどチーム管理のキーマンが管理能力を高めていくこと。

### マニュアル

①クールの開始月までにチームリーダーは『リハビリテーション科チーム計画書』を作成し、チームのサブリーダー等とすり合わせて完成させる。

\*クールは1年を4つに分けていて、第1クールが5~7月、第2クールが8~10月、第3クールが11~1月、第4クールが2~4月とする。

\*計画の立案に対し、どこまでサブリーダーに介入させるかはチームの状況によってリーダーが判断してもよい。

②完成した『リハビリテーション計画書』をリハビリ科主任に説明し、最終調整後確認の印をもらう。

③調整後は計画書に沿ってチームの活動を実施していく。

④もしも、期間中に計画内容を変更したい場合は、新たに計画書を作成し、主任の確認の印をもらう。

⑤クールの修了月に、チームリーダーは計画を振り返り『リハビリテーション科チーム活動報告書』を作成し、チームのサブリーダー等と確認し、訂正する。

⑥完成した『リハビリテーション科チーム活動報告書』をリハビリ科主任に説明し、最終調整後確認の印をもらう。

⑦完成した活動報告書はリハビリ科管理者が保管する。

⑧活動報告書の内容を踏まえ、次クールの活動計画・報告書を作成する。

# リハビリテーション科チーム活動計画・報告書

作成日 令和2年7月30日

期間： 令和2年度 第1クール(5~7月)

計画	報告
4月30日	7月30日

チーム	リーダー	サブリーダー	スペシャリスト
白萩A	田中	鈴木	高橋

## チームの現状

I. チームの和が保たれている			
a.節度をもった関係	十分	普通	不十分
b.フォローし合える関係	十分	普通	不十分
c.前向きに刺激し合える関係	十分	普通	不十分
II. リハビリテーションの質が保たれている			
a.効果的な個別リハビリ	十分	普通	不十分
b.多職種連携リハビリ	十分	普通	不十分
c.医療から介護へ切れ目のないリハビリ	十分	普通	不十分
III. 教育環境が保たれている			
a.スタッフの教育的役割が明確な教育環境	十分	普通	不十分
b.成長に繋がる場が整った教育環境	十分	普通	不十分
C.後輩が先輩に相談しやすい教育環境	十分	普通	不十分

## チーム課題に対する事業計画・報告

項目	活動内容	活動結果	結果	
I. チームの和が保たれている	【チーム内新人教育の現状を共有する】 月に1度主任補佐・リーダー・サブリーダー・スペシャリストでプリセプティターの課題や現状を報告。	チーム全体でプリセプティターの課題を捉え、効果的な対応が行えた。 プリセプターへの負担が軽減した。	達成	継続
II. リハビリテーションの質が保たれている	退院支援について オペレーターと共に、リーダー・サブリーダーで週1回患者様の状態や方向性とサービスについて話し合いを行っていく。	各スタッフの方向性の基準が定まってきた。 しかし、サービスの提案にムラがみられた。	達成	継続
III. 教育環境が保たれている	【勉強会・カンファレンスの実施】 新人に対して、各プリセプターから挙げた現状課題を共有し、勉強会・カンファレンス等を実施し、知識・技術を身につける。	実践的な課題を捉えることができた。 勉強会の方法は改善性がある。	達成	継続